

提携米通信

2018年9月号・黒瀬農舎

収穫の秋が近づきました。新米出荷は10月中頃の予定です。



有機栽培米の現地確認会

仲間生産者が集まり、有機栽培の現地確認会を行いました。前日までの灼熱の太陽も隠れ圃場周りには楽な日でした。

2018. 8. 29撮影

今年の夏の甲子園はカナノウ（金農）で沸きました。

この農業高校は、我が村の近くの高校で、同窓者が我が村では一番多い公立高校です。（とは言っても、広大で人口密度希薄な当地方ですから30Km余りは離れていますが。）

秋田県は、人口減少率全国第一位、地価下落率第一位、出生者数の推移は、かつての団塊世代時には4万人を超えていたのが、昨年は全県でたったの4千人生まれただけという、高齢化率や出生率もワーストワン。ツキノワグマの出没被害続出など、昨今汚名まみれの「秋田県」での、カナノウの活躍ですから、県中が沸き、いまなお余韻冷めない状況です。

お米の注文時の電話の中でも、多くの方からご声援を頂きました。地元の者としてお礼を申し上げます。

ところで、この夏は豪雨被害が広範囲に発生する。猛暑の記録が各地で更新される。「酷暑」「猛暑」「獄暑」どころか、お盆を過ぎれば、「暑い」ではなくて「熱い」という表現まで飛び出すほどの日本中が異常な天候でした。

当地秋田もお盆前より30℃を超え始め34℃、35℃の日も時々現れ、5時前頃から7時頃までの早朝の仕事はほぼ毎日行いますが、その後は田圃で働くのは無理な日ばかりが下旬まで続きました。

身体にとっては最悪でしたが、イネにとっては好天続だったようで、草取りの助っ人のマガモ君たちに痛めつけられた我が家のイネも、予想以上に快復してくれました。

また、いままでの台風は全部が当地をそれて、今の所、近年にない豊作を予想させる出来となっており、10月の収穫を愉しみにしているところです。

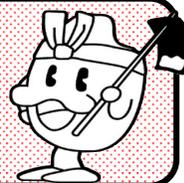
提携米 黒瀬農舎

〒010-0445

秋田県南秋田郡大潟村西1丁目4の7

黒瀬 正・友基

TEL:0185-45-3088 FAX:45-2887



★我が農舎は、電話受付の専任スタッフはおりません。日中は倉庫作業等で、留守電受けが多くなりますが、ご了承をお願いします。
★電話は、日祭日や、夜間もOKです。
★新米は10月中頃以降になる予定です。後進物、後贈答にもご利用をお願いします。

E-mail: akita@kurose.com Web: [提携米 黒瀬農舎](#) [検索](#)

- ★黒瀬農舎からの返信メールが自動的に迷惑メールフォルダに分類されていることがあるようです。返信のメールが届かない場合は迷惑メールフォルダの確認やメールの設定をご確認下さい。
- ★宅配便運賃の値上がりに伴い、複数の運送会社を使うことに致しました。そのため、出荷日/サイズ/お届け先によっては、以前(前回)と運送会社が異なることがあります。ご了承下さい。

残念ですが、農村現場は、いま農薬化学肥料の多投に向っています。

お米作りの状況を確認したり、技術研修する圃場確認会を、稲穂が出揃った8月29日に行いました。

当日は朝から関係生産者の田圃を巡回し、有機として適切な栽培が行われたかどうかの確認と共に、有機肥料や農薬を使わない除草や病害虫対策の新たな工夫など現地技術交換に費やし、夜は会議室での意見交換を行いました。

今回の確認会には、東京から提携米運動の事務局や消費者団体の方も参加下さいました。

さて、今年は日本中が異常な天候になっていますが、幸いにも巡回したどの圃場も順調に育っており、今後大きな台風の襲来がなければ、10月には豊作が期待出来そうでした。

ところで、私たちの有機仲間以外の近隣の生産者の間では、コストを下げるため、食糧制度時代の米作りスタイルであった、味や品質を無視して、ひたすら増収を目指す、化学肥料と農薬の多投栽培が復活して来たという報告が多かったです。

この原因は、TPP対策として、生産コストの低減が農政方針の主流となってきたことと、お米のマーケットが、不景気により、美味しく安全で安心できるお米よりも、1円でも安いお米も求める消費者が多くなったという事情から来ているようです。誠に残念な世相です。



私たちが、納得できる米作りに日々役頭できるのは、このお米をお食べ下さる消費者の皆さんがいらっしゃるお陰だと感謝しています。(2018.8.29撮影)

告

今年の**新米出荷は10月10日過ぎの予定**です。

年末の**お餅やリンゴ、手作り味噌**などの予約注文は**10月中頃にメール便**でご案内します。

☆**10月20日を過ぎても案内が届かない場合は、配達ミスの恐れ**があります。

お手数ですがお電話などご一報をお願いします。

第26回ブナの植栽・早めに切符のお手配を・・・。

私たちの田圃を潤す水は「八郎湖」から導入しています。八郎湖の水の多くは、東岸の馬場目川から注がれます。その源流部は馬場目岳。

この山にブナを植栽始めて26年目の今年も11月3日文化の日にブナを植栽します。皆様の参加をお待ちしております。

最近では、ANA、JAL共に、55日前予約では、羽田→秋田 伊丹→秋田(双方共) ¥11,000~¥14,000という大幅割引があります。

ご参加頂ける方は、下記日程ですので早目のお手配をお願いします。

11月2日 夕刻までに適宜ご到着下さい。黒瀬農舎ロッジにて夕食懇親会。同ロッジ泊。

11月3日 朝食後8時出発 15時JR八郎潟駅解散

*JR八郎潟駅まで送迎します。*ロッジ宿泊・食料は無料。シーツクリーニング代¥500のみ *別途ブナ券カンパ 一人¥1000以上をお願いします *前後日の追加宿泊もOKです。



ブナの下刈り

秋に植えたブナは、翌年夏には雑草に埋没。毎年田植え後にはブナの下刈りに山に向かいます。